

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	鈴木 梢 
所属機関	がん・感染症センター都立駒込病院
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	16 th International Conference of the Society For Integrative Oncology (第16回統合腫瘍学会国際会議)
渡航期間	自 2019年10月18日 至 2019年10月23日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	がん患者に対する統合医療の最新の知見について議論する

研究成果 (要約: 800字)

今回、第16回統合腫瘍学会国際会議において、がん患者における自由診療での免疫療法の使用実態について示説発表を行いました。緩和ケア病棟を退院したがん患者の遺族へのアンケート調査から、自由診療での免疫療法使用実態およびその体験の特徴について明らかにすることを目的として行った調査で、その結果、補完代替医療を使用したがん患者のうち10%が自由診療での免疫療法使用経験があり、他の補完代替医療使用者との比較において、インターネットを通じて情報を得ていること、病気の治癒や進行抑制・苦痛症状緩和などへの期待度が高いこと、経済的な負担や治療のための借金をしたケースが多いこと、標準治療中断例が多いことなどが特徴として明らかとなったことを発表しました。免疫療法についての発表は一つのみで、本邦においては補完代替医療に免疫療法が含まれますが、国際的にはそのようなグレーな形で医療行為が行われていることはない様子でした。

学会中、他の治療に比べて補完代替医療のエビデンスを出す難しさについての討論がなされていましたが、一方で運動療法や、鍼治療、音楽療法といった芸術療法などのこれまでの研究成果の発表や現在行われている研究についての発表も多くみられ、少しずつエビデンスが得られていることを感じる機会となりました。

統合医療として、がん治療に取り入れてがん患者のQOLを向上させるための補完代替医療と、がん患者の不利益になりうる施術について整理し、藁にもすがる思いで様々な情報を探し、希望を維持しようとしているがん患者に対して適切な情報を提供していくこと、その思いに耳を傾けることが重要であることを再確認する機会となりました。今後の私自身の診療や日本におけるがん患者への統合医療の浸透のための活動に生かしていこうと思っています。

今回、学会参加を支援していただいたがん研究振興財団の皆様に心から感謝をさせていただきます。ありがとうございました。